

令和6年度 第1回石狩市自殺対策推進協議会 議事録

日 時 令和7年1月31日（金） 15時00分～16時30分
場 所 石狩市総合保健福祉センターりんくる3階 視聴覚室
出席者 中畑佐和子会長、森川貴司委員、安保隆之委員、
石川正行委員（石狩消防署救急課中島正行主査が代理出席）、
門脇豪紀委員（札幌方面北警察署生活安全課丸山和起巡査が代理出席）、
松尾拓也委員、西野悦子委員、細谷強志委員、新田大志委員、山本健太委員、
宮森明美委員
事務局 健康推進課課長田中昌子、健康推進課主査岩本瑞恵、健康推進課主査青木宏美、
健康推進課主任保健師堀家曜子、健康推進課主任平野開人、
健康推進課保健師小山夏於
欠席者 山崎智美委員
傍聴者 0名
随行者 石狩振興局保健環境部保健行政室（江別保健所）健康推進課主査富山愛香、
石狩振興局保健環境部保健行政室（江別保健所）健康推進課主任保健師神林美和子、
石狩振興局保健環境部保健行政室（江別保健所）健康推進課保健師高橋華慧
見学者 地域包括ケア課主査二上真弓
次 第
1 開 会
2 議 題
(1) 石狩市自殺対策行動計画中間評価報告書について 資料1
(2) 自殺対策に関する各委員からの意見と情報交換について 資料2 資料3
3 その他
4 閉 会

＝＝＝＝＝＝＝＝＝協議内容の記録（協議経過、質疑、意見等）＝＝＝＝＝＝＝＝＝

※ 以下の質疑・意見については、○委員等発言要旨、●事務局発言要旨

1 開会

2 議題

(1) 石狩市自殺対策行動計画中間評価報告書について

●（岩本主査） 石狩市自殺対策行動計画中間評価報告書（資料1）について説明。

【質疑・意見】

質疑・意見は無し。

○（中畑会長） これを持ちまして、石狩市自殺対策行動計画中間評価報告書については委員の皆さまによる確認を終えたということですのでよろしいでしょうか。

【異議なし】

(2) 自殺対策に関する各委員からの意見と情報交換について

- （堀家主任保健師） 石狩市の自殺の状況（資料2）、石狩市自殺対策行動計画における各種指標について（資料3）について説明。
- （江別保健所健康推進課富山主査） 令和6年度江別保健所における自殺対策の取組みについて説明。

【各委員からの意見・情報交換】

- （森川委員） 石狩ファミリアホスピタルでは児童から高齢者まで受診されております。当院の課題として、予約がすぐが取れないことが挙げられます。医師の数が限られているため、一日に受診できる人数が限られており、即時対応ができないときがあり、必要に応じて他院を紹介するなどの対応は取っておりますが、そのような状況に頭を悩ませております。
今後取り組んでいきたいこととして、江別保健所さんの連絡会議に参加したことを契機に、中・低リスク者に対する支援策を学んでいきたいと考えております。また、自院の自殺対策の取組みの一環として、職員向けのゲートキーパー講習を市に依頼し実施予定です。
- （中畑会長） ゲートキーパー講習の実施は、自殺対策を行う上で地域の重要な資源が増えていくことに繋がると思います。
- （安保委員） 石狩市民生委員児童委員連合協議会としては、前回の協議会でも高齢者の見守り、安否確認、悩み相談などの取組みを紹介しましたが、昨年の7月から北海道新聞にも取り上げていただいた活動として、花川南第一地区の約4,000世帯の全世帯を民生委員が訪問して、隠れた悩みごとや困りごとがないか確認を行っております。全世帯に調査票の提出を依頼しており、中には個人情報の提供を拒まれる方もいらっしゃいますが、そういった方であっても反応があったこと自体を成果と捉えております。また、民生委員は本年11月で任期満了となるため、適切な引継ぎの体制を整備しております。
先述の取組みを通じて、今まで見えていなかった個人の課題が表面化してきていることは成果と考えております。また、個人として札幌方面北警察署の補導員を務めており、花川南地区のパトロールや児童生徒だけでなく親世代や高齢者への声掛けを通じて、地域の方々の隠れた悩みごとや困りごとを見逃さないよう努めております。
- （中畑会長） 共助が弱まってきていると言われている中で、大変頼もしい取組みであると感じました。
- （中島主査） 石狩消防署の救急搬送状況について情報共有させていただきます。昨年の救急出動件数が速報値で3,227件、そのうち搬送された方が2,815名となっており、過去2番目に多い出動件数となっておりますが、令和5年が最多件数となっているため、出動件数自体は横ばいの状況となっております。そのうち、故

意に自身に傷害を加えた場合に分類される自損行為による搬送は 32 件となっており、過去 5 年間で全体の 0.9～1.4%であることを踏まえると、極端な増減はないものと判断されます。自損行為の中には、救急隊員が現場で死亡確認をした場合と、医療機関に搬送される場合がありますが、搬送件数は 22 名となっており、そのうち、オーバードーズによる搬送が 11 件で、搬送者のうちの半数がオーバードーズにより搬送されており、最年少が 13 歳、最年長が 47 歳、平均年齢が 25.7 歳となっており、特に 10 代から 20 代の女性に多く見受けられます。

その他の取組みとして、救命講習を通じて命の尊さを伝えていくことは継続して行っております。講習会自体は一般財団法人石狩市防災まちづくり協会に担っていただいております。昨年は 13 回、277 名の実績となっております。江別保健所さん作成のカードについては全救急車に配備しており、該当事案に際して適宜配布するよう隊員に共有しております。今後も各機関と連携し対策を講じていきたいと考えております。

- （丸山巡查） 当直時にオーバードーズや自傷行為などの事案について、救急隊員の方と共に対応に当たっております。対応記録を適宜共有し、いつ誰が対応しても問題ないよう体制を整備し、対象者に親族や知人等がいる場合は、対象者が孤立しないよう観護依頼等の情報共有を行っております。また、巡回連絡時には詐欺防止の啓発活動と併せて、いのちの電話などの普及啓発にも努めております。
- （中畑会長） 消防と警察の方からの報告でしたが、共通して「若年層」と「オーバードーズ」がキーワードであるように感じられました。これらに対し、関係機関が今後どのように連携して支援していくかが重要であると考えます。
- （松尾委員） 商工会議所は市内約 800 事業所が会員となっております。資料説明の中で、有職者の死亡率が高いとの報告もあったことから、事業所を通じて自殺の予防・啓発に係る各種活動の告知等を行うことはできますので、その際にはお声掛けいただけたらと思います。
- （中畑会長） 経済状況も自殺の一因に挙げられることから、関係機関に繋がるためのきっかけづくりとして重要な活動であると感じました。
- （西野委員） 司法書士会では、社会問題検討委員会において自殺対策に係るセミナーや講演会等の情報提供がなされております。また、相談事業は常に受入れの体制ができておりますので、今後は広報活動等にも注力していきたいと考えております。
今後は自殺企図者や自死遺族の方を対象とした、法律上専門的な相談体制も構築されていくと良いと考えております。
- （中畑会長） 法律的な観点から助言が得られることは大変心強いと思われるので、今後どのような形で連携を図っていくか検討する必要があると考えます。
- （細谷委員） 石狩市相談支援センターぷろっぷでは、障害のある方や疑いのある方の相談を受けております。ここ数年の印象として、コロナ禍以降精神疾患に係る相談が増加しているように感じられます。併せて若年層からの相談も同様に増加していると感じられます。

今後の課題としては、独居者へのフォロー体制の構築が挙げられます。希死念慮に係る相談やオーバードーズをされた方については繋がりを持つことができますが、自ら発信のない方や関わりを拒む方もおりますので、そのような方々を見守る地域のネットワーク構築が重要であると感じております。

- （新田委員） 特定非営利活動法人ジェルメ・まるしえは、石狩市より委託を受けて、不登校・引きこもりの方を対象に、居場所づくりや就労・学習支援の他、子ども食堂の運営などの活動を行っております。支援対象者には複合的な課題を抱えられている方も多くいらっしゃるので、関係機関と連携した支援の継続が重要であると考えております。

これまで継続的に支援・相談を行っている方が自殺に至ってしまったケースはございませんが、他の委員の方と同様に支援に繋がらない方へのフォローについては課題であると感じており、市民向け講演会や出張相談会、家族会などの他、子ども食堂や地域カフェの運営など、様々な活動を通じて周知に努めております。

- （中畑会長） 細谷委員と新田委員のお話から、相談に繋がらない方のリスクをどのように把握してフォローしていくかが課題であるということと、継続的な相談や支援が当事者の自殺予防に繋がっているということが改めて感じられました。

- （山本委員） 教育支援課では、スクールソーシャルワーカーが児童生徒からのいじめや不登校などに関する相談を受けて、学校や福祉の関係機関と連携し、解決に向けたサポートを行っております。また、学校現場には学校生活での悩みを相談できる存在として、スクールカウンセラーが配置されています。

先日厚生労働省が発表した年間自殺者数について、全体の人数は2年連続減少の2万268人で過去2番目の少なさとのことでしたが、小中高生は過去最多の527人とのことでした。SNSやインターネット上のトラブルが動機であった場合が増加しているとのことですが、いじめの調査においても、SNSやインターネット上のトラブルをあげる児童生徒が増えていると感じております。

自殺予防教育については、市内の小中学校全校でSOSの出し方に関する教育を実施しております。子どもが不安や悩みを抱え、命の危機に直面した時に、誰に、どのように助けを求めればよいのか、具体的かつ実践的な方法を学ぶことを目的としています。困ったときは迷わず相談することや具体的な相談窓口を把握すること、相談されたときに相手の感情を受け止めて理解しようとするなどについて学んでいます。

児童生徒が学ぶことに加え、保護者や教職員も含め私たち大人も、地域の相談できる存在として、共に学び理解していくことが必要だと思います。学校では、児童生徒の身近な存在である教職員が、校内研修に位置づけてスクールカウンセラーから自殺予防教育の必要性や対象となる児童生徒との向き合い方などについて学んでいます。その中で、担任の先生が一人で抱え込まずに管理職などに報告・相談することで、情報共有し「空振りOK、見逃しNG」を合言葉に積極的に関わることをしています。必要に応じて、スクールカウンセラーやス

クールソーシャルワーカー、子ども相談センターの職員とも連携し、チーム学校として支援を行うこととしています。

○（中畑会長） 先日参加した会議の場で、青少年が SNS を巡るトラブルに巻き込まれた際にどのように対処しているかという質問に対し、「我慢する」と回答した方が最も多かったという調査結果が紹介されており、結果として精神的に追い詰められてしまう子どもが少なからずいるのではないかと感じておりましたので、山本委員のお話をお聞きして、今後子ども達のいじめ対策や自殺予防を考えていく上で、SNS との関わり方についても考えていかなければならないと改めて感じました。

○（宮森委員） 子ども相談センターでは 18 歳未満の子どもの相談を受けております。産後に希死念慮が見られる母親やオーバードーズをしてしまった中学生、不登校・引きこもりの方など様々なケースに対応しておりますが、改めて自殺を未然に防ぐ重要な役割を担っていると感じております。相談内容が深刻であるため、子ども政策課、教育支援課、ジェルメ・まるしえさんなど様々な関係機関と連携していくことが重要であると考えております。

また、個人として令和 4 年度から奇数月に自死遺族の会も行っており、活動も間もなく 3 年が経過しますが、この活動は引続き行っていきたいと考えておりますので、そのような相談者がおりましたら紹介いただけたらと思います。

○（中畑会長） 自死遺族の会は、繋がりを持つことが難しく時間も掛かることと思われますが、そのような会の存在が救いとなっているものと考えます。

全体を通して、委員の皆さまの取組みはどれも熱量のある素晴らしいものであると感じられましたので、今後は提示された課題に対して、関係機関がどのような形で連携してそれに対処していくかが重要であると考えます。

【質疑・意見】

質疑・意見は無し。

【各委員からの意見・情報交換を受けて事務局からの所感】

●（岩本主査） 皆さまの取組みをお聞きする中で、特に「共助」がキーワードではないかと感じられました。具体的には、地域の人たち同士の見守り、支え合いなどの緩やかな繋がりが重要であると感じられました。中でも安保委員からお話のあった、民生委員の方が 4,000 世帯を全て訪問するという取組みは大変勉強になりました。自殺対策は、一つの機関だけで対応することは困難であるため、この場でできた繋がりを活かし、今後も関係機関の皆さまと連携して対応していきたいと考えております。

3 その他

●（岩本主査） 今後市として実施していきたいと考えている取組みとして、高齢者の自殺予防対策は実施していきたいと考えております。高齢者と接する機会の多い地域

包括支援センター、ケアマネージャー、介護保険事業所、民生委員の方々と積極的な関りを持ち、これらの方々が自主的に開催している研修等への参加の他、可能であればゲートキーパー講習も実施していきたいと考えております。

次に、自殺死亡率が高いとされている独居者・無職者に対しては、生活保護の担当部署である福祉総務課や社会福祉協議会の生活困窮担当の方々と連携し、個別ケースへの対応に努めていきたいと思っております。また、上記の方と同様に自殺死亡率が高い有職者の支援においては、接する機会も乏しいことから、商工会議所の方にもご協力をいただきながら、まずは取っ掛かりを掴んでいきたいと考えております。

最後に、悩みや困りごとを抱える様々な方が必要な情報を得られるよう、市広報やホームページだけでなく、様々な媒体を通じた周知に努めていきたいと思っております。

- （堀家主任保健師） 令和7年2月18日に開催される講演会「公認心理師と考えよう～ストレスとの上手な付き合い方～」についてご案内。

4 閉 会

令和7年2月25日 議事録確定

石狩市自殺対策推進協議会

会長 中畑 佐和子
